

平成22年度第3回都筑区地域福祉保健計画推進委員会 会議録

議 題	<p>1 第2期都筑区地域福祉保健計画素案について 2 地域福祉保健計画発表会について 3 その他</p>
開催日時	平成22年12月7日 午後1時～午後2時30分
開催場所	都筑区役所2階研究室
出席者	<p>大山学委員長、岩嶋伸幸副委員長、柴田正委員、佐藤栄子委員、石田宣子委員、加藤和夫委員、大貫洋子委員、盛淳子委員、片岡勇司委員、花田清廣委員（10人）</p>
欠席者	志村一郎副委員長、蛭名さゆり委員、川原美智子委員、
決定事項等	<p>1 第2期都筑区地域福祉保健計画素案について審議し、了承された。 2 地域福祉保健計画発表会について審議し、了承された。 3 その他 次回開催日程（平成23年2月1日（火））について決定した。</p>
議 事 等	<p>〔議事〕</p> <p>1 第2期都筑区地域福祉保健計画素案について【資料1】 事務局より、第2期都筑区地域福祉保健計画素案について説明があった。</p> <p>2 都筑区地域福祉保健計画発表会について【資料2】 事務局より、都筑区地域福祉保健計画発表会について説明があった。</p> <p>3 報告について【資料3～8】 事務局より、下記事項について報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域懇談会の実施状況 ・「地域福祉保健活動100選」取材状況 ・地域福祉保健計画の周知 ・災害時要援護者支援事業「つづき そなえ」事業 ・あいちゃんボランティア推進事業 ・平成22年度「つづき あい基金」助成活動の進捗及び助成活動団体活動状況アンケート <p>【意見・質疑応答等】</p> <p>（1）第2都筑区地域福祉保健計画全般について</p> <p>委 員：自治会町内会など組織化された組織を中心に進めているが、都筑区は転入者が多いので、組織化されていない人をどう巻き込んでいくのかが第2期計画では大事になってくる。また、幅広く情報の共有化を進めることが大事。</p> <p>委 員：方向性2にある幅広い参加、人材育成を進めるには、人材の掘り起こしを進めることが大切。所属する連合ではいろいろな行事を実行委員会形式にして、自治会から一人は委員として出てもらい、係を細かく分けることで、負担を軽くしていろいろな人に協力してもらっている。また、若い人にシフトしていかないといけない。人材は、大勢いる。先日、防災訓練を行ったが、子どもたちも単純なことならできるので、小中学生にも「おにぎりを作る役割」で51人におにぎりを作ってもらった。高校生には、取材や記録を頼んだ。</p>

委 員：素案は、統計資料を使い、わかりやすく、説得力のある内容になっていると感じた。第2期計画の方向性についても、『顔の見える地域づくりを進めます』『幅広い区民参加で活動や取組の輪を広げます』『必要な人に支援が届く仕組みづくりや取組を進めます』とこれまでの懇談会で課題とされたものを整理し、3つのテーマにまとめることができた点で、よかったと思う。

今後は、区民の方々の自主的な活動を支えるために、ケアプラザ・区社協・行政の三者が風通しの良い連携関係を深めることが重要。また、行政内部でも福祉保健センター内はもとより、区政推進課や地域振興課等との連携がより緊密に行われることが求められると考える。「情報の共有」と「協働」がさらに進むような具体的方法を考えていく必要があるのでは。

(2) 地域福祉保健活動100選、計画発表会について

委 員：地域福祉保健活動100選は、地域の中では一生懸命、活動を見つけてきたという思いがある。第2期計画の発表会では、新しい取組だけでなく、より充実させた地域の取組も含めて発表していけば良いのではないか。また、100選冊子は、一部の人しか見ていないので、もっと浸透する配布方法を考えた方が良い。

事務局：第2期計画では素案にもあるように、3つの方向性に基づく取組を中心に、地域で行われている様々な先行的な取組を広めていくことが必要と考えている。100選は、毎年20活動ずつ選定し、発表会で発表していただいていたが、予算の関係もあり、4000部しか刷ることができなかった。今後は、より多くの方に知ってもらうためにも、少ないページで印刷部数を増やして自治会町内会での回覧ができる情報紙にしていきたい。地域でなされている先行的な取組をピックアップしてご紹介し、年に何回か発行でできたらと考えている。

(3) 「つづき あい基金」助成金や助け合いの仕組みづくりについて

委 員：つづきあい基金助成団体で、区民の身近な相談を受けつけている「都筑相談窓口」の構成や活動状況について聞きたい。

委 員：「都筑相談窓口」は11のワーカーズコレクティブ（以下、ワーカーズと言う）が集まり、結成した団体。ワーカーズは、子どもから高齢者まで様々な生活支援をしている。各ワーカーズで得意分野、専門分野があり、活動の中で分野にかかわらず、利用者から様々な相談が寄せられている。例えば、高齢者支援をしているワーカーズにも、子育ての相談を受けることがある。そこで、今回「つづき あい基金」助成金をきっかけに、それぞれの専門知識を活かして相談に乗り、関係機関につないでいく「都筑相談窓口」として団体を立ち上げ、研修をしたり、情報共有をしている。まだアクセス数は伸びていないが、今後広げていきたい。

委 員：22年度「つづき あい基金」助成活動団体の「都筑相談窓口」と「ほほえみの会」は、活動的に関係してくるところがありそうだが、連携はしているのか。

事務局：今のところ、連携はしていない。「都筑相談窓口」は都筑区全体を対象としており、「ほほえみの会」は、葛が谷 CP エリアを対象として活動している。「ほほえみの会」は、「都筑相談窓口」のように区全域で大々的に広報して、相談を受けてつなげるのではなく、身近な地域での依頼を受けて、草むしりや買い物のつきそいなど、実際に活動するボランティア団体。

第 2 期計画では、各 CP エリアでごとに「ほほえみの会」のようなボランティア団体を育成し、草むしりや病院の付き添いなど、ちょっとした助け合いの取組を増やしていきたいと考えている。各 CP の担当エリアも広いので、さらに、身近な地域ごとに助け合いの仕組みづくりができるように進めていきたい。

委 員：佐江戸加賀原地区でもちょっとしたボランティアに取り組めればと思っている。今後、高齢者が増える中で、ゴミ出しや電球の取替えなど、ちょっとした助けが必要になってくる。

事務局：他区でもちょっとしたボランティアに取り組んでいるところがあるが、有償で実費相当額をとっている。それをボランティアの交通費に充てるなど、無理なく活動を行っている。

委 員：ボランティアには、必ずお金がかかるもの。交通費を支給するなどしないと続かない。

都筑区は若い人が多く、組織化が難しい地域。今後はボランティアの組織が重要になってくる。「つづき あい基金」助成金を受けた団体は、資料 8 のアンケートにあるように、現在も活動を続けている。

委 員：アンケートの意見にもあるように、「つづき あい基金」の原資のチャリティーゴルフが続くかという問題がある。企業も資金不足の時代。ちょっとしたボランティアの場所を設定するのにもお金がかかる。

委 員：お金集めにはいろんな方法がある。都筑区には企業の研究所が多い。ゴルフというやり方でお金を集めるのは参加しやすい。寄付には個人の参加もあり、都筑区に愛着のある人はたくさんいる。募金箱を設けて、100 円でも募っていけば良いのではないか。お金集めは難しいが、あい基金というきちんとした資金があることは、珍しいのでは。

(4) あいちゃんボランティアの推進について

委 員：店舗に配る PR 用のぼり旗は、町内会にも配布して、町をあげて PR した方が効果がある。赤ちゃん会でもあいちゃんボランティアの説明をしたが、すぐに 30 人が入った。若いお母さん方にも、「自分たちで赤ちゃん会をできるように会館の鍵を開け閉めしたりすることも、ひとつのボランティア」だということを説明したら、若いお母さん方も入ろうと考えた。きちんと趣旨を説明して、広めていくことが大事。のぼり旗は値段が高いようだが、きちんと説明すれば企業は有料でも協力してくれるのでは。

委 員：あいちゃんボランティアは自治会役員も対象か。

事務局：対象となる。

委 員：はまともカードを持っている人にも働きかければよいのでは。

委 員：ボランティアといってもいろいろある。学校、PTA、幼稚園、保育園などにも全て情報を流せばよいのでは。こっちから積極的に行かないと広まらない。数は力になる。